

HOPES

ホープス セカンド
2nd

花も野菜も村づくりの復活へ
渡邊 春治さん(小畠)

「避難の時は、社員も一緒に相馬市の仮設に入れるよう、取り計られていただきました。当時は皆で1か所にいれば: という思いがありました」。渡邊さんは補助事業を活用して事務所も相馬市に移し、その後離れてくるを得なくなる社員もありましたが、一貫して村での仕事に関わり続けました。

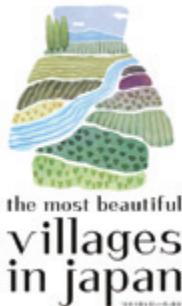
平成29年にオープンした「いいたて村の道の駅までい館」では、道の駅の見どころとなっていました。



「いいたて村の道の駅までい館」の「花玉」は、年間を通してホールの空間を優美に彩っています。花玉の養生も、道の駅に隣接する農業用ハウスの中で行っています。

の年には玉ねぎも植えたのですが、植えて終わり。収穫することができませんでした」。

全村避難となり、途切れてしまつた野菜の生産も、来年の再開を目指して、村の担当係と相談をしながら準備を進めています。「花も野菜もハーブなども、村の農産物は、色や日もちが違うと、市場の評価が高い」と。次は、「んな品種を作つてしまふリクエストもあつた」と言います。「徐々に露地でも野菜をつくつて、村の人達に食べてもらいたいね」。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

● 色づいた樹々と青空のコントラストがあまりにもキレイで、通勤の車内で一人歓声を上げる毎日です。ふるわいと住民のカメラ教室ツアーが開かれた日も、村内は絶好の晴天。「あいの沢」を訪れた参加者を、もりの案内人の高野靖博さんが民家園で出迎えました。土間の囲炉裏に赤々と炭が燃えて、いい雰囲気。私も村の秋をしばし満喫。(星)



福相農園・福相建設の代表取締役。までの企業組合の専務理事として、村の道の駅の立ち上げに関わり、現在は道の駅を彩る花玉の管理や隣接する農業用ハウスでの花栽培などに携わっています。

る花玉の管理を行いながら、隣接する農業用ハウスで花栽培も行っています。

避難指示の解除後は、妻と母親と3人で、小宮の自宅に戻りました。同居していた息子夫婦は、相馬市から村に通勤して、一緒に働いています。

「震災前は、広い畑で、ジャガイモやブロッコリーをつくっていました。六次化の流れで、村にスーパー工場ができる所で、震災の年には玉ねぎも植えたのですが、植えて終わり。収穫することができませんでした」。

くらし

くらし

くらし

くらし

くらし

くらし